

より磁気テープに集録した。機器は Pho/gamma Camera (Nuclear Chicago 社製) を用いた。得られた像を Phosdac, 1000 Digital color (キモト社製) で解析した。その結果, ^{99m}Tc -アルブミンを Dolus と使用する場合は、静注後 15~20 分後に尿中排泄が著明であるので本核種の使用の際には 5~10 分後にスキャン像を得る必要性がある。本法の問題点である母体の血液及び胎盤及び胎児の被曝量は MIRD 法によりそれぞれ約 42mrad, 12 mrad, 及び 9.5mrad と計測され非常に微量の被曝量であった。胎盤位の決定は、スキャン像からの正常、低位、全位の読影は明瞭である。しかし内子宮口に対しての境界領域に位置している例の決定は難解である。そこで我々はスキャン像を Phosdac に適応させ、胎盤プール内子宮口周辺部の解析を行った。即ち public point を通る垂直線上に対して Laterality として, right (r), middle (m), left (l), Verticality として Upper (U), Center (C), down(D), この指示点に Overlap するもの(1), しないもの(0) をそれぞれ設定しそれらの標示により核医学的分類を試みた。

その結果、辺縁位及び部分位の診断には今だ難点があり現在更に検討が必要であるが本手段により位置の読影上簡便で更に診断率の向上が期待できうると考える。

13. 肺癌における Ga シンチグラフィーの検討

○行武 純一 志田 幸雄
 宮田 史典 西川 博
 本田 一義 唐沢 正明
 椎葉 忍 渡辺 英之
 隈崎 達夫 山岸 嘉彦
 清水 浩 斎藤 達雄
 (日本医大・放)

^{67}Ga citrate によるシンチグラフィーは肺癌の急激な増加とともに、診断の一助として有用性が増してきた。我々は今回、原発性肺癌 104 例、転移性肺癌 13 例の ^{67}Ga citrate のシンチグラフィー

について、ことに、組織型及び腫瘍の大きさによる集積率の検討を試みたので報告する。

組織型別に、腫瘍影を呈した症例の陽性率は、扁平上皮癌 85.3%, 腺癌 77.8%, 小細胞性未分化癌 100%, 大細胞性未分化癌 88.9%, 転移性肺癌 46.1% であった。

腫瘍の大きさによる集積率では、大きさ 20mm 以下では、いずれの組織型でも陽性取込像を得ることは困難であった。30mm 以内の陽性率は、扁平上皮癌 61.6%, 腺癌 58.3% であった。

無気肺、閉塞性肺炎、胸水等のビアン性陰影を合併した扁平上皮癌 16 例、腺癌 5 例計 21 例では 90.4% の高い陽性率を得ることが出来、その存否、位置、範囲を明確にし得て、照射野及び予後の判定に有用であった。

転移性肺癌では、組織型は関係なく、大きさ 20 mm 以下で 1 例の陽性像をみたが、他はすべて 30mm 以上の腫瘍であった。

14. 上部尿路感染症の ^{67}Ga -citrate scan

宮前 達也 丸木むつみ
 菅 正康
 (埼玉医大・放)

上部尿路疾患 43 例に、腎スキャン (dynamic study, static study) 及び、ガリウム-67-腫瘍スキャンを行なった結果、hypernephroma の 20 例中 7 例にガリウムで陽性像が得られ (35% の陽性率)、腎孟腎炎では、5 例中 4 例に陽性像が得られた (80% の陽性率)。今回は腎孟腎炎について症例を供覧し、報告した。

症例 1. simple cyste に合併した *E. coli* による腎孟腎炎で、cyste に一致して陽性像を認めた。症例 2. 多発性のう胞腎に合併した *E. coli* による腎孟腎炎で、左腎中外側部に陽性像を認めた。症例 3. グラム陰性桿菌による敗血症、糖尿病、左尿管結石の患者で、腎スキャンで、左腎中央部に縦に帯状の取り込みを認め、ガリウムスキャンで、この正常部分を除いた部位に高い陽性像を認めた。